

ヘルスアセスメント開発論

[講義] 1年・2年 選択 30時間 2単位

《担当者名》塚本 容子 [yokot88@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

本科目の目的は、看護師の高度実践をサポートすることのできるヘルスアセスメントの方法について示唆を得ることである。そのために、Translational Researchの手法を用い、看護と他の専門分野の学術的コラボレーションを促進し、ヘルスアセスメントツールの開発を検討、評価する。合わせて、臨床における継続実践 (Sustainability) について吟味する。

【学修目標】

1. Translational Researchの手法におけるプロセスを理解できる。
2. Translational Researchの第一段階であるKnowledge Creationについて学修し、ヘルスアセスメントのための新しいツール開発のための概念を整理することができる。
3. 医療現場における課題を明確にし、ヘルスアセスメントにおけるツール開発を検討することができる。
4. 開発したツールが現場の文脈において使用可能か吟味、及び評価することができる。
5. 継続実践(Sustainability)における課題を検討することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	・オリエンテーション ・Translational Researchとは？	1. コースオリエンテーションにて目的・目標を確認する。 2. Translational Researchの手法についての概論を学修する。	塚本
2～3	Translational Researchのプロセス	Translational Researchの手法におけるプロセス各論に下記の通り学修し、ツール開発における概念を整理する。 ・ Knowledge Inquiry ・ Knowledge Synthesis ・ Knowledge Products	塚本
4～6	ツール開発の検討	第2, 3回で学習したプロセスを基に、ヘルスケアアセスメントにおけるツール開発について検討する。	塚本
7～8	ツールの評価方法	開発したツールが現場の文脈において使用可能か吟味し、評価を行うための方法について検討する。そのために一部臨床現場に出向き必要なデータ収集を行う。	塚本
9～10	ツールの評価	第6, 7回で検討した評価方法を用いてツールの評価を行う。	塚本
11～13	ツールの改善	ツールの評価を基に、臨床における課題を踏まえながら、ツールの改善点を明確にする。	塚本
14～15	継続実践における課題	改善したツールが、臨床現場において継続実践可能か検討する。	塚本

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題レポートの作成（100％）

【教科書】

White, K., et al. (2011). Practice Translation of Evidence into Nursing and Health Care Practice. Springer Publishing Company.

【参考書】

適宜提示するが、下記に一部紹介する。

1. Gray, J.R., et al. (2016). Burns & Grove's The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, 8th ed. Saunders.
2. Wilson, S.F. (2016). Health Assessment for Nursing Practice, 6th ed. Mosby.

【学修の準備】

テキストを熟読しておくこと

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、深い学識と高度な実践力、指導的役割の発揮力を修得するという看護学専攻博士後期（博士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。